

これらの地下水盆において、地盤沈下のみられる地域については、今後、現状を上回る揚水もしくは過剰な揚水が行われれば、地盤沈下が進行もしくは進行する恐れがあるものと予測され、また、現に地盤沈下の現象がみられなくとも軟弱層が同様に分布している地域については、将来、過剰揚水等が行われれば、軟弱層に圧密が生じ地盤沈下が発生する恐れがあるものと予測される。

第3節 環境容量

1. 環境保全水準の設定

地盤沈下に係る環境保全水準は、地盤沈下のみられる地域にあっては地盤沈下の進行を抑止もしくは防止することを、地盤沈下の恐れのある地域にあっては地盤沈下の発生を未然に防止することをもって環境保全水準とする。

2. 環境容量の設定

地盤沈下に係る環境容量は、軟弱層の分布状況及び現状の地盤沈下の状況から得られた知見に基づき、地盤沈下のみられる地域、地盤沈下の恐れのある地域、地盤沈下の恐れのない地域の三地域に地域を類型化することをもって環境容量とする。

(1) 地盤沈下のみられる地域

本地域は、軟弱層の分布が認められ、しかも地盤沈下がみられる地域であり、具体的には、水準測量及び観測井等の観測結果により地盤沈下が確認され、その原因が判明している地域、水準測量の結果により地盤沈下が確認されているが原因が判明していない地域及び地盤沈下の一般的な現象がみられるその他の地域であり、県全域の総メッシュ数 7,733 のうち 63 メッシュが本地域に類型化される。今後、現状を上回る揚水もしくは過剰な揚水が行われれば、地盤沈下が進行もしくは進行する恐れのある地域である。

(2) 地盤沈下の恐れのある地域

本地域は、軟弱層の分布は認められているが、現状では地盤沈下の現象がみられない地域であり、総メッシュ数 7,733 のうち 1,426 メッシュが本地域に類型化される。今後、過剰揚水等によっては、地盤沈下の生ずる恐れのある地域である。

(3) 地盤沈下の恐れのない地域

本地域は、地下水盆による区域以外の地域で、もともと軟弱層の分布が認められない地域及び設定した地下水盆の区域であっても軟弱層の分布が認められない地域であり、共に軟弱層の圧密による地盤沈下は生ずる恐れのない地域である。